

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立大島小学校
(※正式名称を記載)

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0604

宮城県気仙沼市高井40-2

E-mail ohshima-sho @kesennuma.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 25名 女子 32名 合計 57名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校のESDのねらいは、地域の自然や環境を見つめ、未来の大島を心に描きながら、環境と生活を振り返り、児童自らが様々な問題に気付くことと、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることと設定している。

本年度のテーマ「見つめよう大島 考えよう わたしたちができること」の活動例を3学年から6学年まで記載

① 3年生「大島の自然の豊かさにふれて」

総合的な学習の時間

「若木浜（磯）の生き物さがし」

磯の生き物に触れて、興味をもったことや気づいたことを観察カードにまとめた。

「大島のユズ（6月～11月）」

6月にユズの花の観察、11月にユズの実の観察・収穫を行い、大島のユズについて興味・関心をもった。

「大島のそば（7月～3月）」

7月に、そばに関する話や民話について、講師の先生からお話をうかがった。8月には、そばサロンの方々に教えていただきながらそばの種まきをし、その後、花や実の観察、収穫、そば打ち体験をした。今後、2月の発表会に向けて、これまでの体験をまとめる。

② 4年生「大島の海の豊かさを感じて」

総合的な学習の時間

「若木浜生き物調査（7月）」

島内にある若木浜へ行き、磯に住む生き物を採集。その後、採集した生き物の数や種類について調べ、大島の海に生息する生き物の豊かさを知った。

「十八鳴浜探検（9月～10月）」

島内にある天然記念物に指定されている十八鳴浜について、鳴り砂の秘密を調べるとともに、現地へ行き、清掃活動을しながら自然環境を守る大切さについて考えた。

「ワカメの養殖体験（10月～3月）」

ワカメの養殖体験や生態調査を通し、大島の豊かな海と、そこで生きる人たちの思いや願いを知り、豊かな大島の海とともに生きることについて考えている。

③ 5年生「大島の海を見つめて」

総合的な学習の時間

「カキの養殖」

6月にカキ養殖について小松武さんを講師に招き教えていただいた。

7月にカキの養殖場見学でロープに付いたカキとその付着生物を観察した。

10月にカキ養殖場見学2回目カキの成長の仕方とのカキ剥きを体験した。

その後、気仙沼市海洋教育実践発表会でカキについての調べ学習で分かったことを発表した。

④ 6年生「大島の海と生きる」

総合的な学習の時間

「ホタテの養殖体験」

5月にホタテ養殖体験の1回目を行った。ホタテの幼生を採苗する方法を指導いただきながら、採苗器を作成した。（2年間を見据えたホタテ養殖の開始、中学校との連携）

9月にホタテ養殖体験の2回目を行った。

採苗器から稚貝を採取、選別し、育成かごに分散した。体験をもとにして、大島の養殖業の未来を考える課題を設定し、探究活動のまとめを行った。



① ユズの収穫の様子



② ワカメの種ばさみの様子



③ 養殖ロープの付着生物



④ ホタテの採苗器作り

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・ユネスコスクールとしての学校の創意を生かし、持続可能な活力に満ちた学校経営の実現を図るために、生活科、総合的な学習の時間の中で、系統性を意識しながら、主に海洋教育に関する体験活動を行っている。
- ・指導内容、指導方法の改善のために、指導計画を見直し、海洋教育単元全体の開発の作成を試みている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・実践したことを振り返り、指導計画の中に反省点・改善点等を記入して引き継ぎ次年度に継続した活動が行われるように、次年度に継続した活動が行われるようにしている。
- ・大島の環境、海洋資源を生かした体験活動を継続して行うことができるように、地域で漁業を営んでいる方々（漁協青年部）と職員がともに活動内容等について話し合い、検討する場を設定している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・海洋教育や総合的な学習の発表会で、講師の方や保護者の方々に発信し、評価の場を設定している。
- ・校内での発表による自己評価、及び、校内職員による評価をしている。
- ・学習したことを発表という形で発信し、学習の協力に対する感謝の気持ちを伝えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・海洋教育発表会として、地域の方に発信している。
- ・子ども達の海洋への興味関心が高まりつつある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- ・ワカメ、カキ、ホタテの学習…漁協青年部
- ・蕎麦の学習…大島蕎麦さろん、蕎麦研究家(成田)
- ・ユズの学習…ユズ農家(小山)

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・児童は、地域の方々の協力により、様々な体験活動ができたことで、改めて大島の豊かな自然を感じたり、地域のよさを実感することができた。
・学習して学んだことを、他地域に出かけて紹介したり、スカイプなどで外部に発信したりする機会をもつことで、児童の自信につながった。
・それぞれの学年で行われている活動の一部が新聞に掲載されたり、テレビで放送されることで、保護者の理解や地域人材の新たな協力も得られるようになってきた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度実施した活動をより深めていくために、3・4 年は、5 時間時数を増やして活動していく。